

災害を乗り越えて

2005年はスマトラ沖大地震の津波災害を皮切りに、JR福知山線の列車脱線事故、ロンドンの同時多発テロ、ハリケーンカトリナによるニューオーリンズの風水害、パキスタンの大地震と、国内外で大きな災害が起りました。その中で、紀宮様と黒田慶樹さんとの結婚は国内の慶事でした。これを契機に若者の結婚に弾みがつき、少子化に歯止めが掛ければ誠に喜ばしい限りです。2006年が皆様にとってより良い年でありますように。

ひるまだより

2005.11 vol.6

医療法人
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office
190-0012 立川市曙町2-9-1 菊屋ビルディング2F
TEL:042-526-3376 URL:http://www.hiruma.or.jp/



ヒルマトキオの
ホッとひと息

今年も年賀状の季節になりました。年賀状といえば干支、戌年にちなんでこの正月は犬の絵柄が沢山届きそうです。かつてわが家にロッキーという、映画のヒーローから名をとったボクサー犬がいました。ロッキーはひどい受け口で、顔を見るにつけ、外科矯正のケースだなど仕事から思ったものでした。ある夏の午後、激しい雷鳴に驚いたロッキーは、越せるはずのない柵を飛び越え、そのまま行方不明になりました。八方手を尽くして探しましたが、遂に見つからないまま、5年後に主のいなくなった小屋を片づけました。小屋の跡は庭木が覆い、ロッキーの暮らした痕跡はもうどこにも見当たりませんが、10数年経った今でも、どこかで元気に生きているような気がして、受け口のあの顔が脳裏を離れません。

質問コーナーから

ホームページ 質問コーナーに寄せられた投稿の中からテーマごとに取り上げて掲載。要約していますので詳細はホームページをご覧ください。

ブラケットトライアングル

矯正後、歯茎に隙間ができることがあるようですが、防ぐ方法はないのでしょうか。
(No.594 歯茎について)

矯正治療後に、歯茎に隙間が現れること(ブラケットトライアングル)は確かにあります。この症状は、矯正による歯肉退縮というより、歯ならびの悪い時には見えにくかった隙間が、矯正治療により歯が整列されたことで見えるようになった、という場合が多いようです。また、成人では加齢的な歯肉の衰えに加え、不正咬合のために歯周病に罹患していることが少なくありません。このようなケースでは、矯正治療後にブラケット

ライアングルは現われやすくなりますが、その出現を完全に防止することはできません。治療法の一つに歯肉の移植がありますが、歯肉の下にある骨の状態が移植後の安定に深く影響し、骨の吸収が進んでいると移植歯肉は定着しません。予防法としては、とにかく歯周病にしないこと、その疑いのある場合は速やかに治療することです。ブラケットトライアングルの根源的な原因は、矯正ではなく歯周病です。



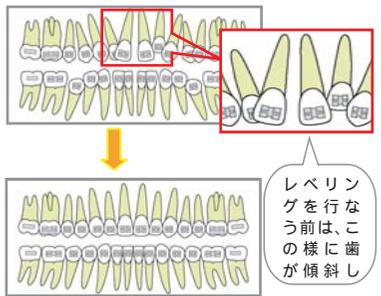
ドキュメンタリー・矯正治療

一月から矯正を開始した当院スタッフの治療の様子を経過とともに解説入りで掲載。今回から矯正治療の進め方についてご説明します。詳細はホームページをご覧ください。

矯正治療の進め方には大きく分けて4つのステップがあります。その4つとは(1)レベリング(2)犬歯の移動(3)前歯の移動(4)仕上げです。今回は、その最初のステップであるレベリングについて説明します。

～レベリングは何のために行なうのでしょうか？～

レベリングでは、歯の上下のずれ、傾斜、捻じれ(捻転)など、また咬合平面のゆがみ、アーチフォームのゆがみを取り除きます。そして、その後に行なう犬歯の移動や、前歯の移動をスムーズに行なえるようにします。いわば、矯正治療を進めていく上での土台づくりです。レベリングでは、歯列のすき間は積極的にコントロールしません。期間は4～6か月くらいかかる場合が多いようです。



～実際のレベリングでは、どの様に変化しているのでしょうか？～

治療開始から5か月後までの変化です。調整の回数は5回、月に一度の治療で、アーチワイヤーを段階的に太くしていきました。5か月後には、たわみが少なくなり、歯の傾斜や捻転が改善されているのがわかると思います。ワイヤーは、ステンレス鋼製で、直径が0.3mmの太さのものから始まり、0.05mmずつ太くなり、5か月後には0.4mmの太さになっています。



～治療開始時～
0.3 mmのワイヤーが初めて入った状態。かなりワイヤーが波打っているのがわかります。



～治療開始から5ヶ月後～
直径0.4 mmのワイヤーが入った状態。ワイヤーのたわみは小さくなり、直線的になり歯の傾斜が改善されています。

矯正豆知識

唾液の抗菌作用

唾液には消化作用、自浄作用、抗菌作用、歯の再石灰化、pH緩衝作用、粘膜保護作用などの機能があり、人が健康を維持していくうえで欠かせない重要な分泌物といえます。唾液の分泌は日常生活に影響を受けやすく、特に食習慣やストレス、薬剤などにより変化し、分泌量が極端に減ると、虫歯、歯周病、口臭が出るようになります。唾液は、1ccで細菌90億個を殺菌するといわれていますが、就寝中は分泌量が著しく下がるため、朝には口の中の細菌が最も多くなります。寝る前の歯磨きが大切といわれる由縁ですが、朝起きた時に口臭がするのは、このことが深く関係しています。